

さといも優良種苗新增殖技術普及事業の概要

今治支局地域農業育成室

1 現状

さといもの種芋は、生産者自身が前年に栽培した収穫芋を用いることが多いことから、種苗伝染による疫病や乾腐病の感染拡大等が懸念されています。



乾腐病



疫病

2 課題

解決策として、定期的に優良種芋への更新が求められていますが、優良種芋は高単価であるため更新が進んでいません。

3 対策

生産者が優良種芋を低コストかつ短期間で生産できるようになるために、当室が開発した「親芋直接採取増殖法」と、岩谷産業（株）のエチレングラス処理技術を組み合わせた新增殖技術を確立し、その普及を図ることで、課題に対応しようとしています。

さといも優良種苗新增殖技術の概要



4 活動内容

(1) さといも優良種苗新增殖技術協議会の開催

新たな優良種苗増殖技術の開発を目指し、生産者や関係機関が連携し、それぞれが持つ知見や情報の共有と技術確立の検討、協議を行っています。



協議会の開催



実証ほ見回り

(2) 実証ほの設置

廃棄されているさといも親芋の腋芽を利用して種芋を生産する親芋直接採取増殖法とエチレン処理を組み合わせた最適な生産技術をみつけるため、様々な条件の下での実証試験に取り組んでいます。



生育調査



収量調査

5 事業効果

- ・ 新增殖法の普及により、農家が生産する種芋からの病気伝染リスク低減を図ります。
- ・ 安価な種芋の生産を実現することにより、種芋更新を促進するとともに、新たな栽培者の獲得につなげます。